2026 年度祥明大學校短期研修報告書

文学部日本語日本文学科3年　江藤　衣

・研修に参加したきっかけ

私は 2026 年9月 10 日から 9 月 17 日の8日間、韓国の祥明大學校短期研修に参加しました。参加したきっかけは、韓国の文化や歴史に興味があり、日本語教育を学ぶ者として日本語を学ぶ同年代の学生と交流してみたかったからです。家族旅行で韓国に行ったことはありましたが、韓国の大学生と交流する機会はこのような大学の研修でしか得ることができないものだと考え、参加しました。

・研修での思い出

研修中は天安とソウルで過ごしました。天安キャンパスでは金先生から韓国語講座を受けました。私は韓国語の単語をいくつか知っているというレベルでした。なので、金先生の授業でサポーターの皆さんとの交流で使える簡単なフレーズを教えていただけたことで、交流の際やソウルで街中の人と関わる際にとても役立ちました。

その後は、サポーターの学生さんたちが天安の街を案内してくれました。ボードゲームができるカフェに行き、韓国のカードゲームなどを楽しみました。

ソウルでは景福宮や韓国中央国立博物館、漢江やロッテワールドへ行きました。景福宮では韓服を着て写真撮影をしました。景福宮周辺や安国は観光客がかなり多いので、CATCH TABLE というアプリで順番待ちや予約をしておくとご飯に困らないです。私は安国にあるホイシクというカルグクスを食べに行きました。韓国人に人気の有名店なのですが、大きな炭火焼きの焼き鳥が入ったカルグクスが1万 2000 ウォンでした。韓屋をイメージした店内で頂くカルグクスは、あっさりとした優しい味に炭火の香りが混ざりとても美味しかったです。

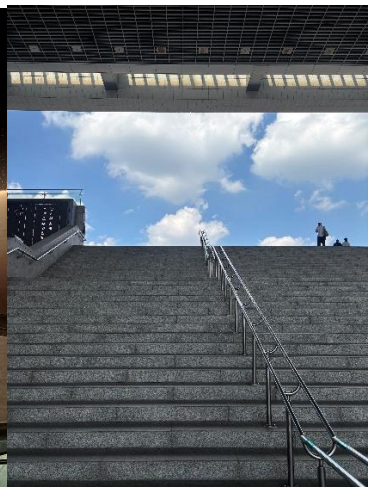
北村文化センターという場所にも行きました。無料で韓屋に入れます。韓国のお正月にするすごろくのようなゲームやコンギをしました。コンギはかなり難しかったですが、韓国では小学生から練習するそうです。



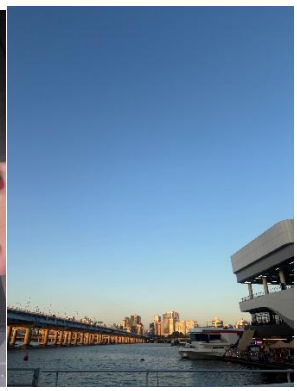


韓国中央国立博物館では、同じ日文の3年生と、2024 年に県立大学へ留学に来ていたサポーターの学生さんと回りました。私たちはじっくりと展示を見たかったので、閉館時間までゆっくりと展示を楽しみました。国立博物館だからか、展示数もかなり多く見ごたえがありました。日本語での説明が少ないので、サポーターの学生さんに詠みあげてもらったり、説明してもらったりしました。また、一番わくわくしたのは日本史の授業で学んだことのある、半伽思惟像を間近で見られたことです。この博物館は、私が好きな韓国ドラマ『21 世紀の大君夫人』の撮影があった場所でもあるので行けたことがとても嬉しかったです。





博物館閉館後、漢江へ行きました。はじめて行ったのですが、河川には見えない広大な景色に圧倒されました。中央国立博物館でサポーターの学生さんから、昔は漢江の利権を巡って争いが何度もおきたと聞いていたのですが、実際に目にすると、これは争っても仕方ないなと納得してしまいました。景色を楽しんだ後は、漢江ラーメンを味わいました。私はあまり辛いのが得意ではないので辛くない物を選びました。秋の匂いが濃くなってきている韓国の風がとても気持ちよかったです。

ソウル最終日はロッテワールドに行きました。みんなで制服のレンタルをしました。20:00 までのレンタルで 2000 ウォンでした。たくさんの可愛いスカートやベストから選ぶことができ、わくわくしました。私は絶叫系のアトラクションが苦手なのですが、屋内のアトラクションや、韓国の人気ゲーム「メイプルストーリー」とのコラボアトラクションを楽しみました。パレードも観ることができました。場所取りができるのが 10 分前からなので、直前でも最前列で見ることができまし

た。ダンサーさんがたくさんファンサやハイタッチをしてくれるのも嬉しかったです。





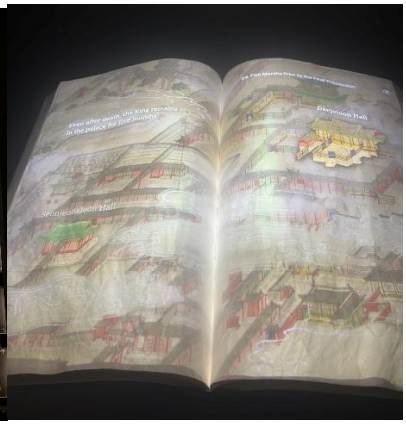
・研修で学んだこと

日本と韓国の違いを多く感じました。

まず韓国は交通費が安いです。天安からソウルまでの高速バス代が片道 6000 ウォンほどでした。バス電車代も基本 1550 ウォンですし、タクシーのスタート運賃は 4000 ウォンでした。移動費があまりかからないので、ソウル近くに住む学生さんが電車で天安キャンパスまで通っていました。

タクシーやバスの運転がかなりアグレッシブです。私はせっかちなので、日本のゆっくり安全運転なバスより、身体が浮く韓国のバスの方が性に合っていると思いました。

韓国国立中央博物館で感じたことですが、展示の仕方がとてもオシャレでインテリアのようでした。映える展示の仕方をするのは、韓国特有なのかなと思いました。

・結び

この研修のサポートをしていただいた CIEE の端羽さん、我研修団を受け入れてくださった金先生をはじめとする祥明大學校教授の皆さん、韓国にいる間つきっきりでサポートしていただいた日本語専攻の学生代表及びサポーターの皆さんにお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。